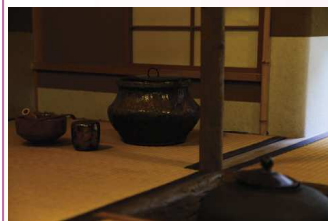


金	1	友引
土	2	先負
日	3	仏滅・文化の日 <small>休日営業</small>
月	4	大安・振替休日 <small>定休日</small>
火	5	赤口
水	6	先勝
木	7	友引
金	8	先負・立冬
土	9	仏滅
日	10	大安 <small>定休日</small>
月	11	赤口
火	12	先勝
水	13	友引
木	14	先負 <b>プチ茶会</b>
金	15	仏滅 <b>プチ茶会</b>
土	16	大安 <b>プチ茶会</b>
日	17	赤口 <small>定休日</small>
月	18	先勝
火	19	友引
水	20	先負
木	21	仏滅
金	22	大安・小雪
土	23	赤口・勤労感謝の日 <small>休日営業</small>
日	24	先勝 <small>休日営業16時まで</small>
月	25	友引
火	26	先負
水	27	大安
木	28	赤口
金	29	先勝
土	30	友引



常滑焼達磨水指 大亀箱

# プチ茶会のご案内

11/ 14 木 15 金 16 土

同時開催

於 1階小間席

ひと足早い歳末謝恩セール

今回のプチ茶会では  
この水指を使用させていただきます

The お道具拝見 「常滑焼・渥美焼」について

常滑焼は「日本六古窯」（瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前・越前）の一つで、平安時代末期（12世紀）愛知県常滑市を中心に、知多半島の丘陵地のほぼ全域に穴窯が築かれ、山茶碗や山皿・壺などが作られた。この時代のもを「古常滑」と呼ぶ。（知多古窯趾群）室町時代に入ると窯は常滑地区に集まり、生産品も大型のものがほとんどを占め、それらの大型の甕・壺は、海運で東北地方を始め、関東・関西・中国から九州にまで運ばれた。窯も地下式の穴窯から半地上式の大窯に改良され、製品は褐色の自然釉の真（ま）焼け、赤物と呼ばれた素焼きの甕を始めとする日用雑器が多く焼かれた。江戸時代に入ると真焼の陶芸品も加わり、江戸後期には、連房式登窯が現れ製品も真焼けや素焼きの土管・甕・朱泥製品（茶器・酒器・火鉢など）が加わった。明治時代になると、欧米の技術・機械化も始まり、燃料も薪から、石炭が使われるようになり、以後、大正・昭和・平成と移り変わって技術も大幅に進歩し、窯、製品の種類・質、生産額も飛躍的に伸びて現在のようになった。常滑市民俗資料館HPより

常滑焼再興の祖・江崎一生（1918～1992）は、金重陶陽から「常滑には国宝の秋草文の壺写真①があるのに、なぜその常滑を目指さず、備前をやるのだ。（中略）天職だと思って、古常滑の再現を目指したほうがいい」と苦言を呈された。江崎はその後、古常滑窯の発掘調査を研究し、その作品が文部大臣賞受賞東京国立近代美術館買上げとなり、幻の人間国宝と言われるほど現在評価が高い。またこの「秋草文壺」は、昭和17年川崎市南加瀬の白山古墳の後円部下方から出土したもので、発見当時、常滑焼に一番近似していると言われていたが、最近では渥美焼とする説もある。慶應義塾所蔵から現在は東京国立博物館に寄託されている。1953年国宝指定。



煙突のある風景とでんでん坂 photo by S/A

知多半島の常滑窯に対して渥美半島にも常滑焼とほぼ同時代に成立したのが渥美古窯。12世紀初頃（平安時代末期）から13世紀末（鎌倉時代）にかけて操業されたが、終焉は早く鎌倉時代の終わりに途絶えた。また六古窯にも入っていない、これら常滑・渥美焼の源流は、平安時代の猿投窯（さなげよう）にさかのぼる。猿投窯は古墳時代から鎌倉時代にかけて愛知県で稼働していた古窯群のことで、その古窯群は1,000基を超える規模で、名古屋市の東部から瀬戸市南端、豊田市西部から刈谷市・大府市まで約20km四方の地域に分布。とりわけ名古屋市と日進市をはじめ多くの窯跡が密集し、猿投山（さなげやま）の西南部に広がった古窯跡は山の名前から猿投窯と名付けられました。平安時代の猿投は焼物に大きな変革をもたらし、中世最大の窯場として繁栄した。時代が平安から鎌倉に変わり、貴族から武士の時代になると、内陸にある猿投は交易に不便なことから衰退に向かい、海に面して海上交通の要衝にある常滑焼は猿投に代わって繁栄する。作品の運搬先は、北は青森から南は四国、九州まで広がった。



国宝・渥美  
「秋草文壺」  
東京国立博物館蔵  
写真①



## トオル社長の珍道中 「10/10 表千家神宮お献茶」に行ってきました！

毎年の恒例行事、表千家神宮お献茶に娘とおよばれ行ってきました。台風前日はありましたが天気に恵まれ、お家元と一緒に思い出になりました。修行先の後輩もお手伝いしていたので話も弾み楽しい一日を過ごせました。15代家元を襲名した猶有齋は、家元としては初めのお献茶で、立派におつとめされました。前家元の而妙齋は、隠居し千宗旦と改名、表千家十五代の中では8代啜囉斎・10代吸江斎・11代碍々斎につき4人目となりました。当社では、山政小山園猶有齋御好 薄茶「音羽の白」濃茶「水明の音」が好評です → →



佐久間勝山  
瀬戸肩衝茶入  
而妙齋齋 松涛

北村徳齋帛紗店  
御題帛紗「望」古帛紗  
出帛紗いかがでしょうか



各 特價 ¥7,430  
満月十五夜の意味を持つ「望」。令和になり初めて迎える新年の帛紗には、遙かに昇り立つ満月を友禪ぼかしの技法で黎明の新しい光とともに鮮やかに染めました。



古帛紗 各 ¥4,950  
出帛紗 各 ¥14,850

令和元年 Xmas 商品

華乃会お買得価格でのご紹介です

 中村良二 灰釉クリスマス水指 ¥27,000	 加藤永山 クリスマス 黒釉茶碗 ¥5,600	 見谷福峰 粟田焼風 クリスマス茶碗 ¥5,000	 今岡三四郎 聖書香合 紺色 ¥13,400
----------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------

### 編集の窓

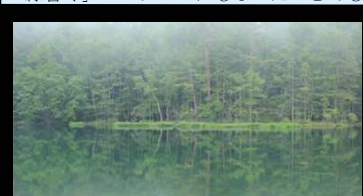
11 12月号は各地の紅葉を紹介させていただきます



10月21日撮影

御射鹿池の紅葉と新緑 photo by S/A

長野県、奥蓼科の標高1500mの山の中にある風光明媚な「御射鹿池」。その名は、諏訪大社に伝わる御射山御狩神事にその名前の由来があると云われている。静かな水面には背景の山々の風景が逆さに映り込み、幻想的な光景を創り出す。その姿は日本を代表する画家、東山魁夷の有名な作品「緑響く」のモチーフにもなったことでも知られている。



6月21日撮影

周囲のカラマツ林は、季節ごとに大胆に色を変え、静かに映し出される水面がみじやかにいけ

### ご案内



クリスマスと言えばサンタクロース。サンタクロースといえば、フィンランド。ですが、キリストの出生はパレスチナ、サンタクロースである聖ニコラウスはトルコ...では、何故フィンランドに住んでいると言われ始めたかと言うとフィンランドの新聞社が「トナカイのご飯が足りなくなったのでフィンランドの山奥に引っ越しました」と、言ったところそれで定着したようで...ちょっとした冗談からここまで定着したのはスゴい

ギャラリー森田ホームページ  
右記のQRコードを読み込み  
アクセスしてください！



月刊「ギャラリーいさん」編集プロジェクト